

みずほ

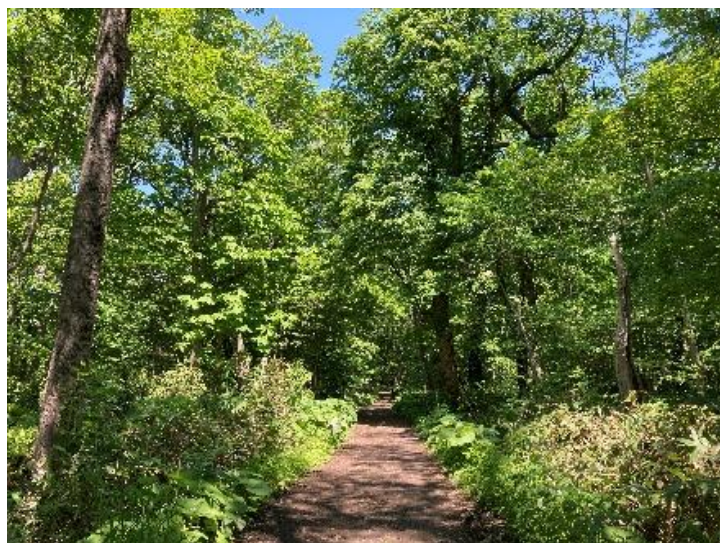
瑞穂池

第 55 号（発行：2025. 8. 1）

野幌森林公園の 大沢口

野幌森林公園には遊歩道の入口が5か所あり、その内、自然ふれあい交流館に最も近い入口が大沢口です。

入口から約100mで大沢コースなどへ向かう分岐がありますが、その100mの間でも、70種類以上の植物を1年を通して観察でき、時期によっては野鳥や動物の気配も感じることができます。



大沢口の植物

草本 フクジュソウ、ミズバショウ、ザゼンソウ、エゾエンゴサク、エンレイソウ、コンロンソウ、ニリンソウ、オオバナノエンレイソウ、ネコノメソウ、オオタチツボスミレ、セントウソウ、マイヅルソウ、オオハナウド、コウライテンナンショウ、オオウバユリ、ヤブハギ、キンミズヒキ、ミズヒキ、ミミコウモリ、ヨブスマソウ、エゾトリカブト、ツルニンジン、ミゾソバ、サラシナショウマなど

木本 ハルニレ、カツラ、ハウチワカエデ、イタヤカエデ、ヤチダモ、アサダ、フッキソウ、ヤマグワ、シウリザクラ、ホオノキ、シナノキ、ツルアジサイなど



過去園内に人が住み、木々や土地が利用された歴史がある野幌森林公園ですが、大沢口では巨木が見られ、原始の面影を感じます



遊歩道から見える沢

野幌森林公園のカタツムリ

ナメクジを含めて陸に住む貝類を陸産貝類と呼びます。野幌森林公園では 16 種類の陸産貝類(ナメクジを除くカタツムリ)が確認されています。

今回は確認されているカタツムリの特徴や見られる場所、魅力ある生活史などをご紹介します。

(◎:ペロペロキャンディー型の殻、△:ソフトクリーム型の殻)。

～文・写真：普及啓発員 J～

大きいカタツムリ 4 種類

◎エゾマイマイ (殻の直径約 40mm、北海道内で最大)

殻の色が真っ黒いものや茶色一色のもの、茶色い帯があるものなどがある。体色は白からまだら模様、真っ黒まで様々。草の葉や地面を歩いていることが多い。



◎サッポロマイマイ (殻の直径約 30mm)

クリーム地に黒い帯の殻。体には黒い線が入っている。木の幹にすることが多く、一本の木に 100 匹近くいたことも(右写真)。



◎ヒメマイマイ (殻の直径約 25mm)

白地に茶色の帯の殻。まれに帯のないものもある(右写真)。

体色は白色。草の葉などで見られる。



△オカモノアラガイ (殻の長さ約 25mm)

体が透けて見えるほど殻が薄い。

草の葉や茎などでよく見られ、園内では一番出会う。まれに寄生虫ロイコクロリディウムが触角に入り込んでいることもある(右写真)。



小さいカタツムリ 12 種類

◎オオキビガイ (殻の直径約 6.5mm)

巻き数が多い茶色の殻。

草の葉や茎、落ち葉の下などにいる。



◎パツラマイマイ (殻の直径約 6.5mm)

平べったく目立つすじ(肋)がある茶色の殻。

地面や落ち葉の下などにいる。



◎ハコダテヤマキサゴ (殻の直径約 5.0mm)

巻き数が少なめで外周に角が見られる茶色の殻。原始的な種類で蓋があり、大触角の先は尖る。

落ち葉の下などにいる。



◎エゾヒメベッコウ (殻の直径約 4.9mm)

丸みのあるやや平べったい茶色の殻。

落ち葉の下などにいる。



◎コハクモドキ（殻の直径約 4.2mm）

丸みのあるやや平べったい茶色の殻。裏側から見ると中央のへこみが目立つ。
落ち葉の下などにいる。



◎タナカキビガイ（殻の直径約 3.2mm）

高さのある茶色の殻。
落ち葉の下などにいる。



◎エゾキビガイ（殻の直径約 2.6mm）

巻き数が多い茶色の殻。
落ち葉の下などにいる。



◎チシマコハクガイ（殻の直径約 0.9mm、日本最小）

とても小さくよく観察しないとカタツムリかどうかとも分からないほどの大きさ。
落ち葉の下などにいる。



△ヤマボタルガイ（殻の高さ約 6.0mm）

艶のあるこげ茶色の殻。
落ち葉の下などにいる。



△ナガナタネガイ（殻の高さ約 2.1mm）

上下に少しつぶしたソフトクリームのような茶色の殻。
草の葉や落ち葉の下などにいる。



△オジマヒダリマキゴマガイ（殻の高さ約 2.2mm）

目立つすじ(肋)が見える白色の殻。
落ち葉の下などにいる。



△ケシガイ（殻の高さ約 1.6mm）

白色の殻。
落ち葉の下などにいる。



国内外来種のカタツムリ

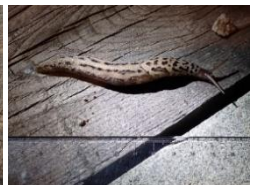
◎ウスカワマイマイ（殻の直径約 25mm）

まだ野幌森林公園では確認されていませんが、江別市や札幌市などで見つかっています。



ナメクジの仲間

殻を持たない陸産貝類で、見た目での識別は難しい。



※右側 2 枚：外来種のマダラコウラナメクジ（野幌森林公園では 2022 年 8 月 21 日に初確認）

カタツムリは誰もが知っている身近な生き物で、野幌森林公園では散策すると必ず出会うことができます（冬期間除く）。生態などは面白くもあり不思議でもあり、とても魅力的な生き物の一つです。

参考：「原色日本陸産貝類図鑑」東正雄著/保育社
「野幌森林公園のカタツムリ図鑑」堀繁久・水島末記著/北海道博物館
「陸産貝類の観察と研究」湊宏/ニューサイエンス社

鳥の プチ情報

Vol. 11

今回は森の中で聞こえている鳴き声の正体についてご紹介します。
草や木の葉が生い茂る森で野鳥を探すのは大変です。そんな時、声の特徴を押さえておくとなんが鳴いているのか判別しやすくなります。
特徴的な鳴き声の野鳥を取り上げてみました。

・ヤブサメ

大きさ：11cm

鳴き声：シーシーシーシー

特 徴：藪の中や地面を活発に動き回る

声は虫の鳴き声のように聞こえ、尻上がりに鳴く



・アオバト

大きさ：33cm

鳴き声：アーオ、オアーオ、アーオ

特 徴：樹木が豊富な森林で生活する

緑色の体や鳴き声がもとで“アオバト”と呼ばれている



・ツツドリ

大きさ：33cm

鳴き声：ポポッ、ポポッ、ポポッ

特 徴：筒をたたくような声で鳴く

野幌森林公園では5～7月の間によく鳴いているのが聞こえる



・カッコウ

大きさ：35cm

鳴き声：カッコウ、カッコウ、カッコウ

特 徴：平地から山地の開けた林、草原など幅広く生息する

鳴き声から名前がついたとされている



今回紹介した4種類の他にも特徴的な鳴き声の野鳥が他にもいますので、森の中を歩きながらどんな場所からどんな声がするのか、ぜひ耳を澄ませてみてください。

参考文献：北海道野鳥図鑑 河井大輔・川崎康弘・島田明英 著

～執筆：普及啓発員 K～

野幌森林公園 自然ふれあい交流館

(発行・編集／指定管理者：一般財団法人北海道歴史文化財団)

開館時間：10～4月 9:30～16:30、5～9月…9:00～17:00

休館日：毎週月曜日(祝日・振休の場合開館)、年末年始(12/29～1/3)

入館料：無料

駐車場：大沢口 約40台収容、無料

連絡先：〒069-0832 北海道江別市西野幌 685-1 TEL011-386-5832

自然ふれあい交流館
公式ホームページ



自然ふれあい交流館
公式 SNS

